令和4年度第2回
上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました

令和5年2月18日（土）に第2回上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会（以下、協議会という。）を開催し、4つの専門部会の3年間の活動内容、次年度に向けた課題、令和5年度以降の協議会の取組方針・体制案について確認し、意見交換を行いました。

協議の結果、第3期（令和5～7年度）の取組方針及び体制案について承認されました。

専門部会の3年間の取組評価と今後の方針は次のとおりです。

＜入退院時支援部会＞

【取組評価、課題】

・入退院時の連携について、医療側・在宅側双方の取組や工夫点、困りごと等を意見交換する機会を通して、双方で欲しい情報が違う等の相互理解につながり、連携がとりやすくなったが、意見交換をする機会はまだまだ限られている。

・円滑な入退院支援のためには、本人の思いや入院前の様子等が書かれた地域連携連絡票等の情報共有ツールが有効であることから研修会を開催した。地域連携連絡票に本人が大切にしてきた事や“思い”を込めるなど、質を高める必要がある。

【今後の方針：次期部会への提案】

・医療側と在宅側の双方の意見交換ができる機会を設け、相互理解や関係づくりを支援する。

・円滑な入退院支援が行えるよう連携ツールの理解及び活用を含めた研修会を継続し、それを広げていけるような仕組みづくりを検討する。

＜対人援助スキルアップ部会＞

【取組評価、課題】

・部会内で『パーソン・センタード・ケア』の理解を深め、支援で大切にしたいことを確認できる研修ツールを作成した。その研修ツールを用いて職能団体や職域で研修会を開催し、日頃の支援について振り返ってもらうことができた。

・部会で取り組んだことは対人支援を行っていく上で重要な要素で、繰り返し振り返るべき内容である。あわせて、その人らしい生活を支えるために、家族を含め支援に関わる人が同じ目線で支援を行っていく必要がある。

【今後の方針：次期部会への提案】

・研修会の継続や受講しやすい体制について検討する。

・これまでの取組みを踏まえ、更なる周知啓発に関する取組や支援者がチームとして機能していくにはどうしたらよいか検討する。

＜急変時対応部会＞

【取組評価、課題】

・急変時の対応で、介護支援専門員に負担が集中している実態から介護支援専門員を対象にした研修会を開催したことで、日頃の業務の振り返りや、関係機関との連携の大切さを学ぶ機会となった。

・急変時に備え、本人の具体的な意向や医療情報をチームで共有する必要がある。

・上越市と妙高市の救急医療情報キットの見直しを行い、内容を統一することができた。

【今後の方針：次期部会への提案】

・多職種連携の大切さや情報共有ツール等の活用について、支援者が学ぶ場が必要である。

・本人や家族が急変時に備えた意向を表出できるよう、支援者に対して意思決定支援に関する啓発が必要である。
・急変時において本人の意向に沿った適切な支援をチームで行っていくためにはどうしたらよいか検討する。

＜市民啓発部会＞

【取組評価、課題】
・「市民が、思っていることや大切にしたいことを考える」ためのきっかけ作りの一つのツールとして、リーフレットを作成することができた。
・各委員の職場や職能団体での配布や市民向け講座等で使用し、実際に啓発を行っているが活用は十分に広まっていない。
・市民が、人生の最終段階の暮らしや看取りの実際を知らないために、具体的に望む生活のイメージを持てない。

【今後の方針：次期部会への提案】
・作成したリーフレットを市民向け講座や各職能団体での配布を続け、広めていく。
・市民が望む生活のイメージを持てるように、必要な取組を検討する。
・専門職が本人の意向に沿った支援を行えるように、医療と介護の連携や看取り等に関する知識を深められるとよい。
・人生会議をテーマにした講演会等での啓発を継続していく。

＜第３期（令和５～７年度）の取組方針＞

〇目指す姿

住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域を目指す。

〇第３期の専門部会について

４つの専門部会からの提案にもとづき、部会での検討等、取組を継続していく。なお「対人援助スキルアップ部会」は名称を「対人支援スキルアップ部会」に変更する。（援助者と利用者は対等な関係であり、その人を支えていく視点が重要であるため）

協議会委員より

・職能団体の研修会にて対人援助スキルアップ部会で作成した研修会ツールを使用した。これまでは自身の専門職視点から対象者をみていたが、それ以前の基本として対象者の話を聞くことの重要性等を考えることができた。一専門職種の職能団体の研修会で使用を広めるだけでなく、多職種を交えた研修会で使用することで、各々の専門職からの意見が聞けて視野が広がるので、より良い支援につながると思う。
・病院の看護師は、それまでの患者の生活を理解しにくい。介護関係者と意見交換を行うことで気づきも多いことから、今後も交流の機会を継続していただきたい。
・歯科医師会としては、特に入退院に携わる必要がある。退院前カンファレンスでは口腔内に関わるケアプランが少ない印象がある。対応できる人材はいるため、連携していきたい。
・入院時にケアマネジャーから地域連携連絡票を提出いただき、患者の生活や意向を知ることができるので大変助かっている。
・地域連携連絡票は在宅サービスの利用申込書としても活用されていることから、上越地域全体に浸透してきた。
・市民啓発部会で作成したリーフレットを上越地域包括ケア推進情報ウェブサイトがんぎネットの市民向けページに掲載したい。

■終わりに

第2期の3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、協議会委員や部会委員、事務局が会議の開催方法を工夫し、課題解決に向けた取組を行ってきました。

今後も上越地域が目指す姿に向けて、様々な取組を行っていきますので、ぜひ各職能団体の御協力をお願いいたします。